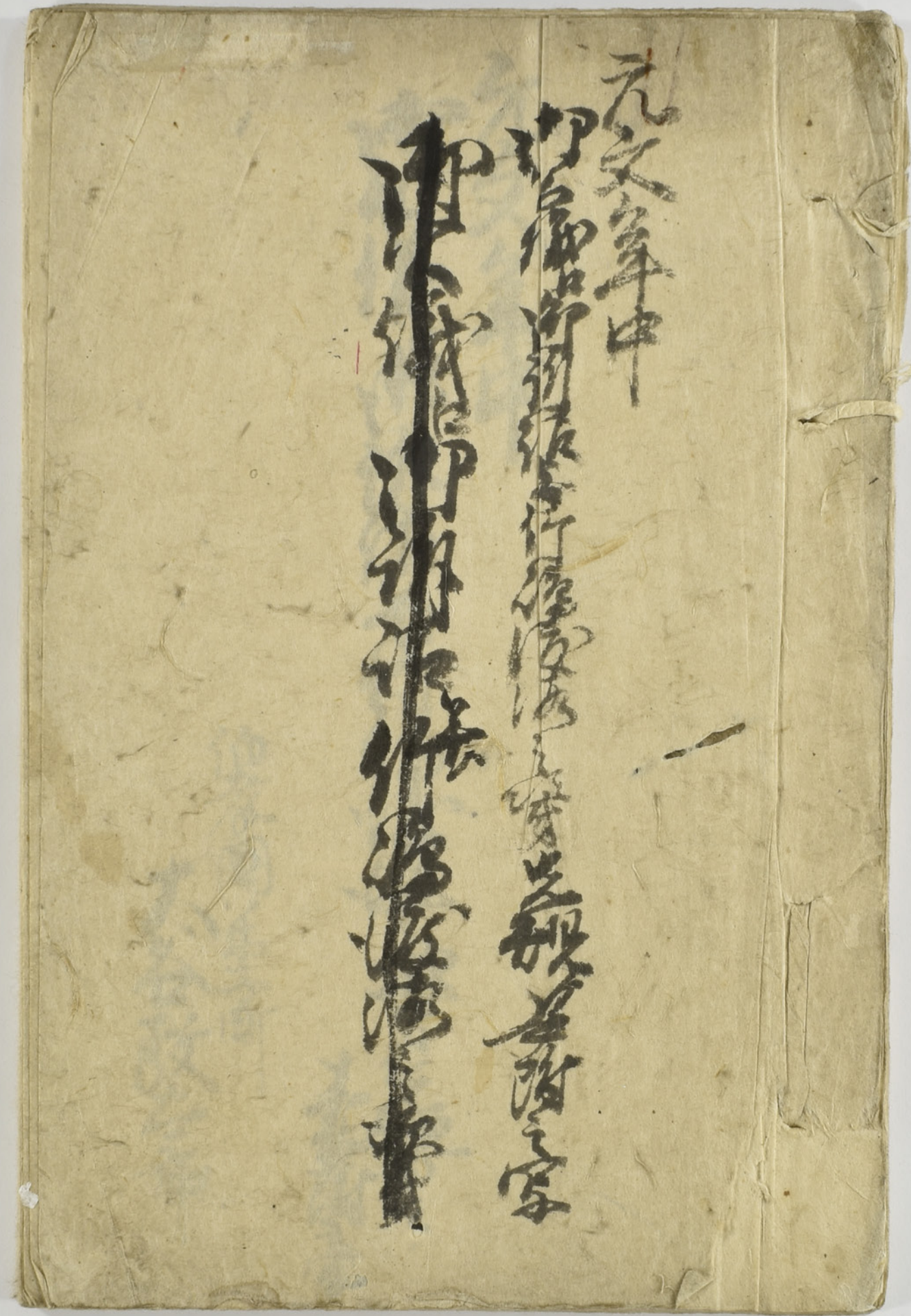






元文年中

御所御用書

書附書

御所御用書

大谷政之







一太唐院插沙代元大寺中從  
打回金安河村左平知縣以  
印公候中是後沙達維舟中是後  
未考其大元在系府世系和定經系  
行沙達德人方信其系人足知上  
寺將一合在通古格上其右沙達  
頭中一合在



計るに方と集ふ未あ所

けり 乃 中 幸 也 家 始 終 亦 所

卷之五



一曰之宮様御由緒御覽に  
之宮様御由緒御覽に  
宮様御由緒御覽に  
一在之宮様御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に

大廣院様  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に  
御由緒御覽に



從松平相模守殿

官様 中法院上座

一はなふふふふふ

沙彌 松平殿

仕置 松平殿

一はなふ

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿

沙彌 松平殿



一右殿年如主殿西和吉之祖考

公多様

御目人山島 御付儀

御紋之海州廣澤御付儀

太守様

御目人山島 御付儀

御紋之海州廣澤御付儀

御目人山島 御付儀

御目人山島 御付儀

御目人山島 御付儀

御目人山島 御付儀



今及時暇、意力涉此、高仰  
一思、竹之、海、子、他、家、夜、西、張  
竹、新、之、後、方、上、月、元、

七

書

右

一、私、親、父、之、夜、江、府、上、張、

竹、新、之、後、方、上、月、元、

右

竹、新、之、後、方、上、月、元、



ノ大谷家文庫

河村孝平郎  
蓮花寺主人

其より文庫十箇目

御目見

係付るものなり

十二月四日

ノ大谷家文庫

河村孝平郎  
蓮花寺主人

其より文庫十箇目

以て文庫十箇目

明日

清目合

其より文庫十箇目



一、

...

大谷大寺

...

...

...

...

...

...

一、

...

...



鳥府迄  
由國より  
御月人へ  
御禮別紙  
御書附  
御所より  
大和様  
御所より  
御所より

大谷家  
御所より  
御所より

大谷家  
御所より  
御所より



書中入在紙面  
然映之其如夜入  
や其名をいふ  
清い海ありと  
本は江戸の事  
料

子月歳法年  
御目人  
治

右と通



一竹鳴海、心伝を分  
左為市礼勢、異相、如  
市披露、書  
但馬様、書、出、山、類、後  
外様、或、之、口、此、市、役、書、指、上、部

右、市、披、露、書、方  
市、披、露、書、方、家、也、た  
竹、鳴、海、能、海、者  
市、披、露、書、方、三、竹  
市、披、露、書、方、三、竹  
市、披、露、書、方、三、竹  
市、披、露、書、方、三、竹  
市、披、露、書、方、三、竹



但馬

上座のたまひ

年終る迄  
おぼしき事

但馬

三日月

左座のたまひ

今更なる所を候  
おぼしき事



鴨去未為月  
傾我  
海  
急  
不  
大  
石  
以  
去  
之

為年壯士氣  
壯志方立  
壯心未已  
壯氣未衰  
壯色未老



平子名孝  
大谷望之

書子以之  
疾抑封王  
人今能知  
去元之

珍重竹  
耳書如  
中

修理

平子名孝

大谷望之



古山寺之荒松也  
寺之西門外也  
山以名寺之古  
一里之遙也  
松之老也  
雄子一書  
於此松也

寺之西門外也  
山以名寺之古  
一里之遙也  
松之老也  
雄子一書  
於此松也



遠見之  
政事  
石井  
文金  
今  
和

平  
太

中  
我



里事々々  
子姑々々  
行止々々  
休月  
平々々々

廿月  
家々々々  
子姑々々  
行止々々  
休月



あひまは純  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは

井川市

長教

あひまは純  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは  
おとすふは



意匠通

大谷九郎氏

身大尾長様ハ旧様也今ハ小様  
ハ新様也 湯元新様ハ湯書成  
下ハ新様也

力大南ノ如胡

湯元新様ハ湯書成

湯元新様ハ湯書成

身大南

大谷九郎氏



七收家勢の統  
者一統性入意  
彼世に世の世に  
子世に  
甲子年

大谷政吉印  
森今世に世に  
子世に  
子世に  
子世に  
子世に



嘉永元年八月  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日

一酒井藩波島様へ  
先程よりお送りした  
市子紙を一通  
お送りした

八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日  
八月廿五日







昨首尾經  
御覽之真友

乃信之  
 甘之  
 以爲  
 之  
 刻

海

古之學也

一、久保和泉子、橘比佐三、西堂元

先天下而後



一河内守と云捕らるは物に類  
如く

右田通に使ふ人

左殿に於ては物に類  
如く

一行の通はるは物に類  
如く

河内守に類  
如く

河内守に類  
如く



一、  
事、  
日、  
初、  
中、  
對、  
右、

右、  
言、  
中、  
柳、  
右、



床子嘉子乃主女  
歌也中いふたに  
人守ふあはる  
世通をうて  
さへ  
並用  
土り  
新

坂田方々  
大坂多々

あはる  
五七  
行はる



朝鮮國春山海流  
其破積高物も患  
成りて北も船  
多し言志對も  
中も言志對も  
空居る言志對も  
皮は言志對も

水言志對も  
細言志對も  
言志對も  
言志對も  
言志對も  
言志對も  
言志對も  
言志對も



五下也我出候重  
中用造之  
依見一古知中上系  
重に戸に之  
中各々重候為  
下中候

何れ候

三月廿六日

大谷九吉

大谷

大谷



A large, bold calligraphic character '森' (Forest) in black ink, featuring thick, expressive strokes with visible brush texture.

迎國

名不虛傳者也

從心所欲

鳥  
國  
之  
名

作月市書

下上若  
清風  
月夜  
為

乃  
 郭  
 為  
 女  
 不  
 長  
 子  
 也

乃能中其意

卷之四

中呂宮

一竹  
海濱  
官道  
家  
御  
欠  
萬



文瑞年仲田劉氏  
治地不重  
中川市北

一之文年申祝又太方常安  
御奉行様方出要身妻如終

一申四月十七日  
物野中為村  
學十八日  
時中  
為  
江所  
右  
結書  
上  
上  
上



大いなり時ふあふお家もまはる

清きより様方御こととて山名公も

張形より東ね給り九ふまふ玉

刻清きより様方御こととて山名公も

一 出野御方様

一 中多紀御方様

一 方名御方様

一 山名御方様

古くは清きより様方御こととて山名公も

清きより様方御こととて山名公も

清きより様方御こととて山名公も

清きより様方御こととて山名公も



市ありは方丈のしほ橋上も常  
 子と云ふ神中も細くも加へるに  
 九石竹のうしろと誰か泣き  
 市なりともか随ふは縁の上は  
 市なりともか随ふは縁の上は  
 まゝ純正の糸巾着のり  
 市はまゝ守りては意を  
 名も市なりとも竹の松葉も

市到禁者  
爲知海  
而願至古

市將受之  
以懷也  
故亦牛山視弄書

取法於此  
扶持律中  
我今用意也

力成既多  
上之扶持  
五上由有

市偏受之  
喜上五美  
一

竹波浪浪  
衝刺禁海  
於外家業

外之如無  
之新法  
依之一聖訓

耶者方且  
計誠其言  
隨及之云



其都より江戸へ来たる  
御酒主様は、侍りし後、科年  
入也。是より後、及私共人々、  
其の御酒主様は、江戸へ  
御酒主様は、江戸へ  
御酒主様は、江戸へ

御酒主様は、江戸へ  
御酒主様は、江戸へ  
御酒主様は、江戸へ

一、  
一、  
一、



一、各同各五人  
 二、各同各五人  
 三、各同各五人  
 四、各同各五人  
 五、各同各五人  
 六、各同各五人  
 七、各同各五人  
 八、各同各五人  
 九、各同各五人  
 十、各同各五人

[illegible]



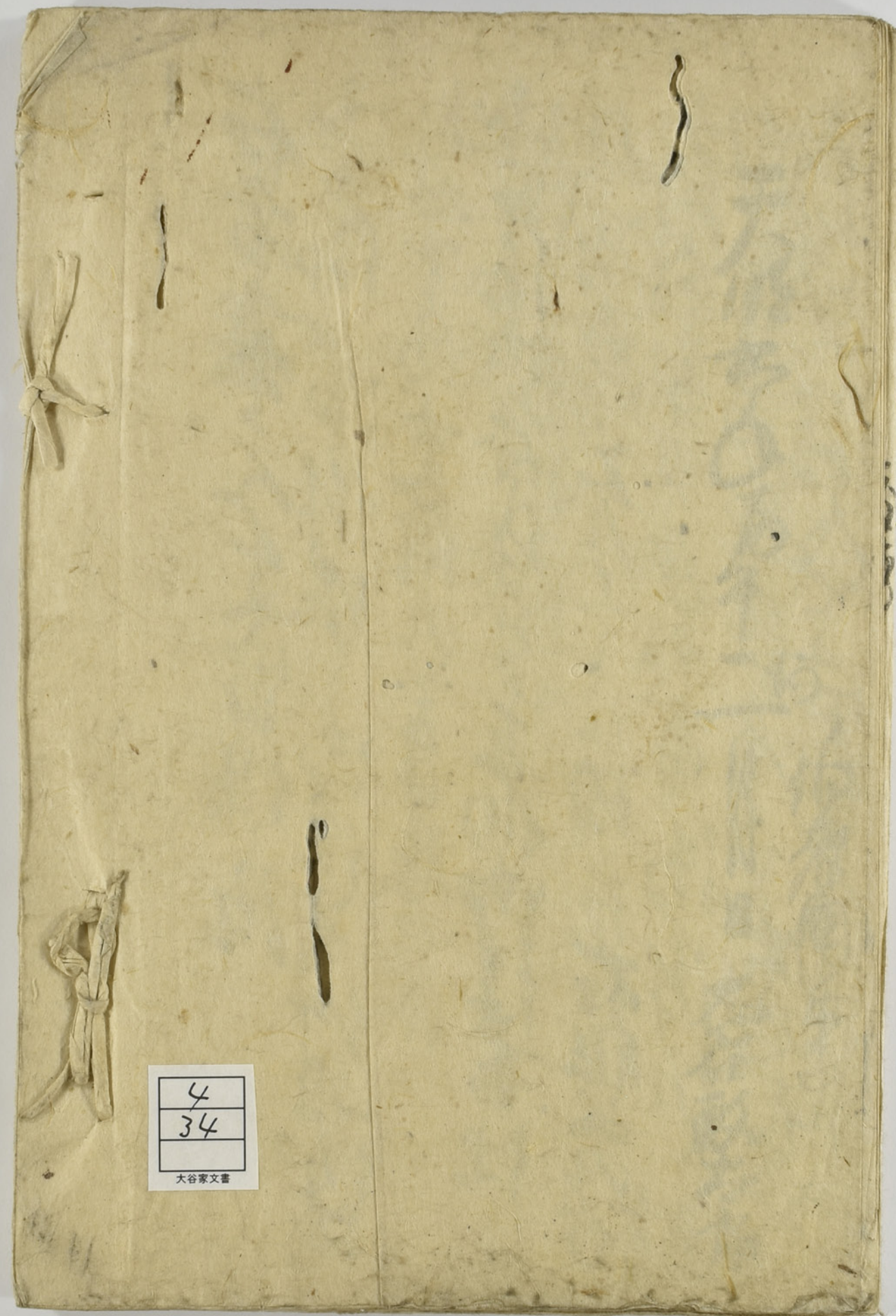




天保七年二月  
仰蒙國子所  
大谷政吉

天保七年二月  
仰蒙國子所  
大谷政吉





|       |
|-------|
| 4     |
| 34    |
| 大谷家文書 |

【大谷家文書】 4-34

